

2019 年度 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練士学科3年制		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名	視能検査学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年制 2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	実習室
担 当 教 員	芝田順子	実務経験とその関連資格	1995年視能訓練士資格を取得。急性期医療を担う一般病院で7年勤務。一般眼科クリニックで11年勤務。現在の眼科に3年目、公的機関の健診業務を兼務18年目。			
《授業科目における学習内容》						
①斜視の状態や分類を理解する。眼位検査の基礎を学ぶ。②大型弱視鏡検査を行い斜視、両眼視機能、眼球運動を理解する。③症例検討で様々な角度から症例を考え、臨床をより身近にする。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験80% 実技試験15% 口頭試問5%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
プログラムチャートで進める眼科検査法/メディカ出版 視能学第2版/文光堂						
《授業外における学習方法》						
1年次に学習した斜視の基礎的な型をしっかりと復習しておくことで、実習内容がより充実する。実習授業時間内で解らなかったこと、疑問点は一度自分の検査記録をゆっくりと考える、教科書で調べることが大切。						
《履修に当たっての留意点》						
眼位検査は視能訓練士業務の中でも検査頻度の高い検査です。正確な検査結果を導き出すには基礎学習と実践の積み重ねが必要です。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	眼位検査のいろいろを理解する。手技の復習。	教科書	フローチャートで進める眼科検査法ハンドブックP74～P87読んでおく	
		各コマにおける授業予定	Aグループ 眼位検査①ヒルシュベルグ法・CT・CUT Bグループ Maddox(正切尺、杆、rod)			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	定性眼位検査を主に、眼球の動きを理解する。	教科書	視能学P314～P317斜視の分類読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	Aグループ 眼位検査②CT・CUT・ACT Bグループ Maddox(正切尺、杆、rod)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	定量眼位検査が行えるようになる。	教科書	視能学P319～P326眼位検査読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	Aグループ 眼位検査③クリムスキー法・APCT Bグループ ニューサイクロテスト			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	大型弱視鏡の基本操作を復習。他覚的眼位測定ができる。	教科書	フローチャートで進める眼科検査法ハンドブックP102～P109読んでおく	
		各コマにおける授業予定	Aグループ シノプトフォア①OA・SA Bグループ 症例検討①			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	融像幅の測定ができる。鏡筒と融像幅スケールの相関を理解する。	教科書	フローチャートで進める眼科検査法ハンドブックP110～P111読んでおく	
		各コマにおける授業予定	Aグループ シノプトフォア②SP・FU Bグループ 症例検討②			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	眼球運動を理解する。	教科書	視能学P328～P335大型弱視鏡検査読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	Aグループ シノプトフォア③FU・ST・9方向眼位 Bグループ 症例検討③		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	大型弱視鏡の測定結果で麻痺筋がどの筋肉なのか理解できる。	教科書	授業内での課題問題、全て復習する
		各コマにおける授業予定	Aグループ シノプトフォア④9方向眼位・まとめ Bグループ 症例検討④		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	眼位検査のいろいろを理解する。手技の復習。	教科書	フローチャートで進める眼科検査法ハンドブックP74～P87読んでおく
		各コマにおける授業予定	Bグループ 眼位検査①ヒルシュベルグ法・CT・CUT Aグループ Maddox(正切尺、杆、rod)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	定性眼位検査を主に、眼球の動きを理解する。	教科書	視能学P314～P317斜視の分類読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	Bグループ 眼位検査②CT・CUT・ACT Aグループ Maddox(正切尺、杆、rod)		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	定量眼位検査が行えるようになる。	教科書	視能学P319～P326眼位検査読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	Bグループ 眼位検査③クリムスキー法・APCT Aグループ ニューサイクロテスト		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	大型弱視鏡の基本操作を復習。他覚的眼位測定ができる。	教科書	フローチャートで進める眼科検査法ハンドブックP102～P109読んでおく
		各コマにおける授業予定	Bグループ シノプトフォア①OA・SA Aグループ 症例検討①		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	融像幅の測定ができる。鏡筒と融像幅スケールの相関を理解する。	教科書	フローチャートで進める眼科検査法ハンドブックP110～P111読んでおく
		各コマにおける授業予定	Bグループ シノプトフォア②SP・FU Aグループ 症例検討②		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	眼球運動を理解する。	教科書	視能学P328～P335大型弱視鏡検査読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	Bグループ シノプトフォア③FU・ST・9方向眼位 Aグループ 症例検討③		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	大型弱視鏡の測定結果で麻痺筋がどの筋肉なのか理解できる。	教科書	授業内での課題問題、全て復習する
		各コマにおける授業予定	Bグループ シノプトフォア④9方向眼位・まとめ Aグループ 症例検討④		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	眼位定性検査の基本手技が正しく行える。	実技試験用実習道具	実技試験に向けて手技の復習、練習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	眼位定性検査実技試験		